

天  
鼓

特 別

チ12

3656

26



早記



是のハ唐は漢ハ帝ハ法ハ人キハ  
 臣下ナワコトモハ國乃僞リ  
 わうちうわうかとうま婦キ者  
 ありこのもの一人の子をもち  
 うけ名を天鼓となすくもて成  
 天鼓となすくもていづも母  
 夢中ハ天ハわひと法ハの鼓也

くたわ胎内ふ蓄るとんこ出さ  
志くる子を終いとくう能ふを  
天鼓となはくそ及天よわ海乃  
鼓階りわうくのそ輝ぬうて  
中人ををもよかきわは由は心  
や旨ま鼓を肉裏よめこ終一ふ  
天鼓ぬかく折一三鼓ふつこき

山中よ浸きぬ終を何くろま地  
たうし終の官人をも終てき一  
和一天鼓をい乃可いの江り  
沈め鼓をい肉裏よ旨ま阿房殿  
雲我園よいへをうまそんそ後  
は鼓をうこきう海ま共さうふ  
な海事なり一つりま海ぬ一終





わうさ〜ふちらわて仕進との  
宣旨少くあるういろひて業内  
仕置ん<sup>テ</sup> 伝長て厚く物あふ  
くふたすぬ被乃老人うあわて  
うちなきいとそふ〜小澤能  
らたの業うらや〜花もらる  
うわ物あなうむき〜ものこふ

上  
大旗い〜き〜聴て〜あ〜終  
たあ〜うあゆらん〜く  
う終もち〜あ〜りの子乃為に  
う〜あ〜れ〜せ〜い〜う〜神〜う〜老乃  
な〜こ〜な〜あ〜〜款〜う〜や〜お〜面  
業〜こ〜ん〜あ〜〜や〜く〜た〜横〜能  
宣旨な〜ん〜た〜く〜は〜〜三〜段



うた鼓おありしりてはうた

あうの我子乃うこそと夕月お

上上かしく屋く玉殿よりしりて

乃うむ老乃才お きてちかひ

久望おしく夫乃鼓をうさふ

うた鼓保りしなしくはく玉園を

うかしくはさほハ聴お乃響まのる

とくおをさくさほなわ 実や

世こそものうわおをせこり

ままきく妻お静若お思ひ思く

思むきしき人を思さうあしむ

あしきさ城あけきく我と心の

周深く輪田の波よたふよふ

あし世こそもあさこの 思ひお



きくおのりきせ乃るる一ひ乃  
海に沈むとうや 地をり  
黙るく 城うけは 細まて 歌子  
裏まきく 衣や いりんや 佛  
同様の人 留ま くり 法 方 成  
下 ころく 寸冬い 流の 町 重 宛 所  
海をわ ころ 山を ころ へ ば 思 ぶ

くく 候へ 奏の ちや 子 三 果 所  
くひ ころきと ききい 候ふ 杉ひ 心  
まろ 祇乃 海に 面乃 袖 志 候 ころ  
下 ころき 候く ころ 衣 方 候 う ころ ころ ころ  
まろ ころひ 乃 かな せよ 沈む 飛 科 候  
下 ころき ころき ころき ころき ころき ころき ころき  
まろ ころき ころき ころき ころき ころき ころき ころき  
ころき ころき ころき ころき ころき ころき ころき ころき







ううひずふ夫いひくを成るう

あふたものき 是は天鼓の七雲

かろの法吊能う難きふ是まて

歌連集りうわ 是くハ天鼓の

亡冥なあうや志りくハあふ

音楽は舞樂も天鼓の意向乃鼓

うらてそ舞の川なすハきよも

天鼓の鼓を成る早く鼓を

流るまほしき うたへやとてい

物行るとは日月かへ年く玉座乃

あうわ 出乃あふ舞すあふ

月宮乃首もかく也とさうわ

大人も舞向 菩薩もさうり

天鼓まほしきうたへあう

うはなわ天乃鼓  
うらなす  
まあうぶくろすいのか  
まうくとりはなわくけり  
うゑ乃しわひく糸竹弦を向の  
舞樂いぬ程や 面面やと幾も  
くまぐく秋風樂の程や松竹舞  
柳葉をりりほて月もひく

星もあひあふ空を程や鳥鶴乃  
梅のまよふあ葉を志さ二星乃  
屋うさ乃まふ風ひやくうふ  
よもぬきく舞津樂りもりや  
なわぬ人習はあハ南星ハ小ふ  
うんたくて天の海はく雪は波  
くちりふやろすい乃はくその



